

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。
なお、字数には句読点などの記号も含むものとします。

現代は情報化社会と言われていて、あたかも私たちは毎日大量の情報に触れているかのように思っています。確かにインターネット上にある情報の量はすごい。その気になれば、何でもいくらでも調べられます。

A、意外にみんなそれほど情報を摂取していないというのが私の印象です。

いつもスマホをいじっているのに、あれも知らない、これも知らない。「最近こういうニュースが話題なんだけど……」と話を振っても「そのキーワードは聞いたことがあるんですが、どんな内容なんですか?」と聞かれてしまいます。どうやら、表面だけサーッと撫でてキーワードだけ拾っており、詳しいところまでは読んでいないようなのです。

「まとめサイトしか見ていない」という人もいます。知りたいことが簡単にまとめてあって、それでわかった気になる。わかった気になったけれど、聞かれると答えられない。間違って読んでいたり、すぐに忘れてしまったりします。

インターネットの海と言いますが、ほとんどの人は浅瀬で貝殻をとっているようなもの。深いところへ潜りにいく人はあまりいません。潜れば、まだ見たことのない深海魚に出合えるかもしれないし、知らなかった世界が広がっているのに、です。同じ海を目の前にしても、やることは人によって違うわけです。

後ほどお話ししますが、読書は人に「深さ」をつくります。

この本でお伝えしたい「深さ」とは、一つのことを突き詰めただけの深さではありません。専門分野について突き詰めていても、他がまったくダメというのではバランスを欠いています。深さは全人格的なもの、総合的なものです。

大学生が本を読まなくなった話をしましたが、実は大学の先生も教養のための幅広い読書をしなくなっている印象があります。私は大学の採用面接でこんな質問をしています。

「あなた自身の教養になった3冊を専門以外で教えていただけますか?」

専門以外というのがポイントで幅広い教養のある人なのかを確認する質問です。学生に対して教養を身につけさせるには、先生自身に教養がなければなりません。

B、急に言葉に詰まってしまう人が多くなっています。「数え切れなくて言えません」というのならわかります。「3冊に絞るのは難しいので、10冊言わせてください」くらい言ってほしい。でも、残念ながら「専門ならすぐ言えるのですけど……」という人が増えているのです。

専門分野は当然詳しいのでしようが、そのバックグラウンドとして一般教養があるべきだと私は思っています。哲学なしに科学をやるとか、文学的なものを知らずに経済学をやるとするのは危険なことです。だから大学一年生には教養課程があります。

2

それがリベラルアーツというものです。

リベラルアーツの概念は古代ギリシャで生まれました。「自由になるための全人的技芸」という教育原理が起源です。人間が偏見や習慣を含めた呪縛から解放され、自分の意思で生きていくために、幅広く実践的な知識が必要とされたのです。

その後中ヨーロッパに受け継がれ、「文法・論理・修辭・算術・幾何・天文・音楽」という「自由七科」として定義づけられました。そして、これがのちに神学・医学・法律といった専門教育ができたときに、それより前に学ぶべきものとなったのです。

現代のリベラルアーツはその流れを汲みながら、近代に発達した経済学や自然科学などが含まれてさらに幅広くなっています。

近年リベラルアーツが重要視されるようになっていますが、グローバル化が進み、社会問題が複雑化する中で、問題解決には専門分野を超えた柔軟性が必要だと強く認識されているからでしょう。専門分野の知識が豊富にあっても、その知識を生かすうえで多角的な視点がなければ難しい。たとえば遺伝子工学を学んで、遺伝子操作の技術がわかったとしても、生命倫理とどう折り合いをつけるべきかという難しい問題に対処していくには歴史や宗教、哲学など幅広い知識が必要とされます。

ですから、ますますCが重要とされている時代なのに、本を読んでいないというおかしなことが起こっているのです。

いま、AI(人工知能)に関心が集まっています。

2017年、AIが囲碁で世界トップ棋士に勝利したというニュースがありました。囲碁は将棋やチェスに比べて盤が広くて手順が長く、場面によって石の価値が変わるという特徴があります。チェスなら可能だった、「すべての手を覚え、計算して最適解を出す」というやり方が通用しづらかったです。だから囲碁では、コンピューターが人間に勝つのはまだ先だと思われていました。ところが、2017年10月に発表されたグーグル傘下のディープマインドによる「アルファゼロ」は、お手本となる先人の棋譜データすら使わず、ひたすら自己学習により強くなっているとのこと。しかも、囲碁だけでなく他のゲームもできます。もはや人間の手を離れて、コンピューターが自分で学習・成長しているのです。

このようにすさまじいスピードで進化しているAI。この分野の権威であるレイ・カーツワイルは2045年にシンギュラリティ(技術的特異点)に到達すると言っています。人工知能が人間の脳を超え、世界が大きく変化するというのです。

AIに仕事を奪われないためには何を身につけておくべきか、AIにできないことをできるようにしておくためにはどうすればいいのかといった議論も盛んです。

しかし私に言わせればそれはナンセンスです。「AIにできないこと」を予測したって簡単に覆るでしょう。現在の進化のスピードを見ても、普通の人間の想像をはるかに超える変化が起こるは

ずです。そこで「AIにできることは学ばなくていい、AIにできないことだけ一生懸命学ぶ」という考えはリスクにはなりこそすれ、人生を豊かにはしてくれません。

AIに負けないことを目的に据えて生きるなんて本末転倒です。それこそAIに人生を明け渡ししてしまったようなものです。

AIが出てこようが出てこなからうが、「自分の人生をいかに深く生きるか」が重要なのではないのでしょうか。

人生を深めるために、AIや未来予想についての本を読むのはとても有意義だと思います。たとえば「人間の脳を超えた知性を持つAIがいた場合、人間らしいやりとりをすることだって簡単だろう。それでは何が人間を人間たらしめるのだろうか？自分は人間に何を求めているのだろうか？」などと本を片手に思考を深めていくことで、人生を豊かにしていくことはできるはずですよ。

1 グーグル・インターネット関連のサービスと製品を扱うテクノロジー企業

2 デイープマインド……。人工知能を研究する企業

(齋藤孝「読書する人だけがたどり着ける場所」)

問一 空らんA・Bの中に入る接続詞を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

(ア) そして

(イ) ところが

(ウ) つまり

(エ) しかし

問二 ぼう線部①「インターネットの海」の「海」は、何をたとえている表現か。もっとも適切な表現を五文字以内で答えなさい。

問三 ぼう線部②「だから大学1年生には教養課程があります」の理由を本文中から抜き出し、最初と最後の五文字を答えなさい。

問四 空らんCに入る適当な二文字を本文中から抜き出しなさい。

問五 ぼう線部a～dで、一つだけ「手」の意味する内容が違っている。記号で答えなさい。

問六 本文の内容であっているものに○、間違っているものに×を付けなさい。

(ア) 作者の述べる読書の「深さ」とは、総合的に物事をとらえる力である。

(イ) 現代人は即座に情報を検索できるが、内容を正確に把握していない。

(ウ) 人は専門知識だけがあっても、それだけではその知識を活用できない。

(エ) AIの進化のスピードは、人間の想像の範囲内で常に行われている。

(オ) 人間はAIに負けないように、常に努力をする強い精神力が必要である。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

なお、字数には句読点などの記号も含むものとします。

「吾輩は猫である。名前はまだ無い。」という有名な書き出しで始まるこの小説では、中学教師 苦沙弥先生の家に集まる人々の言動が、猫の目を通して描かれる。次の文章は、冒頭の少し後の、吾輩が先生の家に住み込むことになる場面である。

この書生せいせいのてのひらのうちでしばらくはよい心持ちにすわっておったが、しばらくすると非常なそくりよくで運転うんてんしはじめた。書生が動くのか自分だけが動くのかわからないが、むやみに目がまわる。胸が悪くなる。とうてい助からないと思っていると、どさりと音がして目から□が出た。それまでは記憶おぼえしているが、あとはなんのことやら、いくら考えだそうとしてもわからない。

ふと気がついてみると書生はいない。たくさんおった兄弟が一匹も見えぬ。かんじんの母親さえ姿をかくしてしまった。そのうえいままでの所とはちがつてむやみに明るい。目をあいていらぬくらいだ。はてな、なんでもようすがおかしいと、そのそはいだしてみると非常に痛い。わが輩はわらの上からきゆうに笹原ささはらのなかへ捨てられたのである。

ようやくの思いで笹原をはいだすと向こうに大きな池がある。わが輩は池の前にすわってどうしたらよかろうと考えてみた。べつにこれというぶんべつも出ない。しばらくして、泣いたら書生がまた迎いにきてくれるかと考えた。ニヤー、ニヤーと試みにやってみたが、だれもこない。そのうち池の上をさらさらと風が渡って日が暮れかかる。腹が非常にへって来た。泣きたくても声が出ない。しかたがない、なんでもよいから食い物のある所まであるこうと決心をして、そろりそろりと池をひだりにまわりはじめた。

どうも非常に苦しい。そこをがまんしてむりやりにはってゆくと、ようやくのこととなく人間くさい所へ出た。ここへはいったら、どうにかなると思つて竹がきのくずれた穴あなから、とある邸内てい内にもぐりこんだ。縁えりはふしぎなもので、もしこの竹がきが破れていなければなら、わが輩はついに路傍ろぼうに餓死がししたかもしれないのである。一樹の陰かげとはよくいったものだ。このかきねの穴あなは今日こんにちにいたるまでわが輩が隣家となりの三毛みけを訪問ほうもんするときの通路みちになっている。

さて屋敷へは忍びこんだものこれからさきどうしていいかわからない。そのうちに暗くなる、腹はへる、寒さは寒し、雨が降ふつてくるといしまつで、もう一刻も猶予ゆうよができなくなった。しかたがないから、とにかく明るくて暖かそうなほうへほうへとあるいてゆく。いまから考えるとそのときはすでに家の内にはいつておったのだ。

ここでわが輩はかの書生以外の人間をふたたび見るべき機会きかいに遭遇そうぐうしたのである。第一に会ったのがおさんである。これはまえの書生よりいっそうらんぼうなほうでわが輩を見るやいなやいきなりくび筋をつかんで表へほうり出した。いやこれはだめだと思つたから目をねぶつて運を天にまかせてい

6

た。しかしひもじいのと寒いのはどうしてもがまんができません。わが輩はふたたびおさんのすきを見て台所へはいあがった。するとまもなくまた投げだされた。わが輩は投げ出されてはいあがり、はいあがっては投げだされ、なんでも同じことを四、五へんくり返したのを記憶している。そのときにおさんという者はつくづくいやになった。このあいだおさんのさんまを盗んでこの返報をしてやったから、やつと胸むねのつかえがおりた。わが輩が最後につまみだされようとしたときに、このうちの主人がそうぞうしい、なんだといいながら出てきた。下女はわが輩をぶらさげて主人のほうへ向けて、この宿なしの小猫がいくら出しても出してもお台所へあがってきこまりますという。主人は鼻の下の黒い毛をひねりながらわが輩の顔をしばらくながめておったが、やがてそんならうちへ置いてやれといったまま奥へはいってしまった。主人はあまり口をきかぬ人とみえた。下女はくやしそうにわが輩を台所へほうりだした。かくしてわが輩はついにこのうちを自分のすみかときめることにしたのである。

(注)

1 書生：他人の家に住んで、家事を手伝いながら勉学をする者

2 路傍：道ばた

3 一樹の陰：ちよつとしたことも前世からの深い因縁によって起こるものだという意味

4 胸のつかえがおりた：不安に感じていた物事が解決すること

(夏目漱石「吾輩は猫である」)

7

問一 本文中のぼうせん部①②のひらがなは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 ぼうせん部 a 「ニヤーニヤー」 b 「そろりそろり」は次のどれにあてはまるか。次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

(ア) 擬人法

(イ) 擬声語

(ウ) 擬態語

(エ) 直喩

(オ) 隠喩

問三 「目から□が出る」は顔や頭を強く打った時の感じを表す表現である。空らんくらんに適当な一語を入れよ。

問四 本文中から主人の会話を過不足なく二カ所抜き出せ。

問五 本文の内容に合うように、次の文章の空らんに入れる適当な語を、後から選び記号で答えよ。

主人は猫に対して、**A**を持ったが、態度は**B**である。

- (ア) あわれみ
- (イ) 愛情
- (ウ) 嫌悪
- (エ) 非人間
- (オ) 温厚
- (カ) 淡泊

三

問一 次のぼう線部の助動詞の意味を後から選び、記号で答えなさい。

- ① 昼から雨が降るそうだ。
 - ② 五日も雨が降らない。
 - ③ 昨日、学校へ行った。
 - ④ 明日も暑かろう。
- (ア) 否定 (イ) 過去 (ウ) 希望 (エ) 伝聞 (オ) 推量

問二 次の四字熟語の□にあてはまる適切な漢字を答えなさい。

- ① 以心□心
- ② 右往□往
- ③ 完全□欠
- ④ 起承転□
- ⑤ 独立独□

問三 次の□に漢字一字を書き入れ、類義語を完成させなさい。

- ① 感染□□染
- ② 欠点□□所
- ③ 必然□□然
- ④ 重宝□□利
- ⑤ 手本□□本
- ⑥ 落胆□□望

問四 次の作品が成立した時代を、後から選び記号で答えなさい。

- ① 舞姫
 - ② 注文の多い料理店
 - ③ 古事記
 - ④ 南総里見八犬伝なんそうりみはつけんでん
 - ⑤ 走れメロス
- (ア) 奈良 (イ) 平安 (ウ) 鎌倉 (エ) 江戸
(オ) 明治 (カ) 大正 (キ) 昭和 (ク) 平成

受験番号
氏名
得点

一

問一	A
	B
問二	

問三	最初
	最後

問四	

問五	
----	--

問六	ア
	イ
	ウ
	エ
	オ

二

問一	①	⑥
	②	⑦
	③	⑧
	④	⑨
	⑤	⑩

問二	a
	b
問三	

問四	

問五	A
	B

三

問一	①
問二	①
問三	①
問四	①
	②
	③
	④
	⑤
	⑥
小計	

小計	
----	--

小計	
----	--